



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

142 号

2021 年 6 月 1 日発行号

最近思うこと

自然文化誌研究会 副代表理事 中込貴芳

東京を始めとして各地で緊急事態宣言が続く中、会員の皆さんはいかがお過ごしでしょうか？自然文化誌研究会も、ほぼ活動休止状態が続いて 1 年以上になります（新たなキャンプへの模索は、始まっています）。今後の情勢によっては、活動再開もどうなるか不透明なままです。（→※「こすげ冒険学校」は、研修を経て開催の旨で募集を開始します（事務局））

しかし考えて見れば、このような危機は、長い人類の歴史の中で、人類が何度もくぐり抜けてきたものだと思います。そして一つ分かっていることは、このような危機に対して都市文明というものが大変脆弱であり、それによって数多くの都市や文明と呼ばれるものが消滅してきたという事実です。悲観的に見れば、コロナ禍は現代文明の崩壊の始まりを示しているのかも知れません。ただ、数多くの人々がコロナ禍の克服に向けて、あるいは他の直面してる危機を克服に向けて、あるいは持続可能な社会の実現に向けて努力していることも事実でしょう。ならば、これまでもそうであったように、どれほどの犠牲を払えば良いかわからないけれど、今あるあらゆる危機は必ず克服されなければならないだろう。

今は、これまでの日本のあり方や自分たちの生活を見直す良い機会ではないかと思う。卑近な例で言えば、24 時間やっているコンビニは本当に必要なのか（よく利用している）？深夜までやっている居酒屋や飲食店は本当に必要なのか（飲みに行きたい）？やはり、余りにも便利に快適になり過ぎてはいないか？

そのくせ、その基盤は、ウィルスという目に見えない生物かどうかさえわからない者によっていとも簡単に突き崩されてしまう。昨今のキャンプブームも、意識しているか否かにかかわらず、今の生活の有り様の矛盾に人間が本能的に反応している結果かも知れない。今のコロナ禍に限って言えば、それは数年もすれば終息するだろう。ただ、その後以前と全く同じような都市や私たちの生活様式に戻ってしまうとすれば、その事自体が危機だと思う。

自然と真摯に向き合うこと、その中で営まれて来た人間の生活文化を見直すこと、それはある意味でそうした現在の危機や矛盾に対して真摯に向き合うことだと思う。今ある危機の中にこそ、これまで自然と文化をを対象として活動してきた本会の存在価値が発揮できる時ではないでしょうか？長く続いて来た会なので大切にしたいですね。

「こすげ冒険学校」のご案内！！（募集要項）

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。

一緒に山と村の暮らしを探検する 7 日間！何をやるかは自分の気持ちと天気によって決まるかな！

日程：8 月 5 日（木）～8 月 11 日（水）6 泊 7 日

場所：小菅村 いつものキャンプ場（清水バungalow）

宿泊：テントで寝袋（一人用で個人就寝、本会で用意）

対象：小学校 4 年生～中学校 3 年生 15 名

指導者・スタッフ：村の人々と東京学芸大学の大学生

参加費：45,000 円（自宅～奥多摩駅の交通費は各自）

備考：コロナ感染対策を初日から共有するため、全日程の参加を原則とし、途中からの参加等は不可とします。

申し込み方法：6 月 25 日（金）必着（締め切り厳守になります）。E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢・学年 をご記入の上、事務局までをお申し込みください。定員を超えた場合は抽選となります。

※抽選になった場合について

①参加の可否については 7/2 日（金）までに郵便で通知します。

②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。



※イメージ写真は過去に実施した時のものです。
今年度は感染対策をするため、密は避けます。

National Institute for Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

タイトル：GW スタッフ研修（感染対策）報告

お久しぶりです、だにえるです。最近驚いたことは、自動車保険と車検ってこんなに高いのかということです。

さて、今回は5月3日（月）～5日（水）にかけて行われたスタッフ研修のことをお伝えしたいと思います。例年ですと、「むらまつりキャンプ」が行われていましたが、今回は夏の冒険学校の開催に向けてスタッフたちが真剣に考え、真剣に楽しんだ時間となりました。

①大まかな実施内容

3日	・テント設営 ・山菜取り、山菜の下処理(はるちゃんがサポート) ・川遊び、五右衛門風呂
4日	・ヤマメ捌き ・散歩、白糸の滝散策 ・スウェーデントーチづくり ・衛生器具制作 ・沢登り、五右衛門風呂 ・燻製づくり(チーズ、ナッツ)
5日	・テント消毒、解体 ・風呂、トイレの片付けと清掃

※資料はみややんが作成

②食事のこと

特に気を付けたのは食事の提供の仕方のことと食器のことです。食器はコップはもちろん、コップも使う人を決めて、管理しやすいように棚を準備することにしました。食事の提供については、ご飯や汁物を配るスタッフを決めてお代わりまで含めて配る形に落ち着きました。おかずの品数を多くしない代わりに、今回は主食に力を入れたので3日の夕飯はパエリア、4日の夕飯は山菜と山女魚の炊き込みご飯というキャンプらしくらめ豪華かつオシャレなものとなりました。学生の頃に鈴木風馬君と一緒に白米を炊くの悪戦苦闘していた僕ですが、羽釜で炊き込みご飯まで炊けるようになり、成長を感じています（こっそりですが）。

おやつ等を提供するときはアルミホイルなどで一人分ずつに分けて対応します。夜にお好み焼きを作りましたが、屋台で食べるご飯のようで楽しかったです。



③テントや衛生のこと

大きく変わったことは、テントが一人一張になること、足踏み式のアルコール手指消毒で手指消毒を小まめに行うことだと思います。テントの個人利用は着替えするのにも便利でしたし、秘密基地のようで正直ワクワクしました。



片付けについては、テントや銀マットを仕舞う前にアルコール消毒しようということになりました。



④プログラムのこと

冒険学校に向けて、真剣に川遊びに向き合いました。具体的には川に入って、川遊びや沢登りをして、お風呂を沸かして、五右衛門風呂で寛ぎました。濡れたマスクを身に付けることは難しいので、マスクを外した上で無理のない範囲で、短時間で工夫して遊ぶことになると思いますが、ダムを作り上げたスタッフはいい顔をしていました…。

川以外のことに触れると、山菜取りは山を登って行って、見てよし、食べてよしの楽しい活動でした。滝を見に行ったり、星空観察をしたりという活動も続けていけるでしょう。それだけでなく、もっと遠出して山登りをしに行くなどキャンプ場だけでなく外へどんどん出ていく相談をしていました。テント内やログハウス内で遊ぶというのは難しいですが、キャンプ場内でできる野外ゲームもどんどん取り組んでいきたいです。今回はモルックというボウリングやビリヤードの要素を取り入れたようなスポーツをやってみました。



2泊3日のキャンプでしたが、真剣に考え、取り組んでいるとあっという間に終わってしまいました。山登りにも出かけてみたかったし、モルックを竹で作っても面白そうです。また、夏にみんなでキャンプ場で会えるのを楽しみにしています。

アイラ島再び（その4） 佐伯 順弘（岐阜県）

DAY6 (13AUG2016) アイラ島滞在。

アイラ島に到着4日目。土曜日。



1658 終日、ウィスキー蒸留所を巡り、バスで宿泊地であるBowmoreの街に戻る。2.75GBP。

バス停から歩いて約1分。Bowmore Hotelに到着。もうアイラ島も4日目なので、本当に「ただいまっ！」という感じである。窓から見える空は穏やかな曇り空、夏なのに暑くない。外から帰ったら、うかい手洗い洗顔。旅ノート書く。

1922 ホテルのレストランへいく。バーが併設されているレストランで、ついに牡蠣を試す。通常旅先では牡蠣を食べたりしない。食中毒が怖いからである。食中毒になりでもしたら、行動が完全に制限されることになり、移動日であった場合、極めて危険な状態になる。その昔、マテガイで当たったことがある。夕食に食べたのだから翌日の午前中に発症。悪寒に襲われ、立っていられなくなった。一緒に食べた仲間は生徒が大勢いる廊下で倒れて吐いた。それはもう悲惨である。下痢便を漏らしてしまうよりはましかとも思うがどちらも勘弁してほしいものである。しかし、そこまで警戒しているにも関わらず敢えて牡蠣を食べるのは、それが使命であるからである。これもその昔、椎名誠の文章にボウモアでは牡蠣にスコッチウィスキー（もちろんボウモア）を少しかけて食べるのだと書いてあった。飲み仲間がそういっているのだから（飲み仲間とは大げさである。一度、一緒に飲んだことがあるだけである。その時、彼は生ビールの後にラフロイグを飲んでいて。）自分も試さなければならぬのだ。（そうか？）いや、試さなければならぬのだと思う。当たったら当たって、話のネタになるではないか。なにより、ウィスキーと生牡蠣の組み合わせという未知なる旅が目の前に扉を開いているのに、その一歩を踏み出さないなど、旅人とは言えまい。敢えて危険を冒し探検をする冒険探検部の端くれとして、ここでこの小さな冒険を回避するわけにはいかない。例え蛮勇と言われようとも、勇気をもって牡蠣に立ち向かうのだ。



控えめに3個。そして、そこに添えられていたのは、ボウモア 12 年である。それを即座に認識できる自分は流石だと一人悦に入る。ついにやりました生牡蠣にボウモア！牡蠣の燻製がおいしいように、スモーキーなウィスキーは牡蠣に絶妙に合う。もっと食べたい気もしたが、そこは自制しなければならぬ。旅先の暴飲暴食は身の破滅である。



他にショートパスタをいただいて、終日酔って長距離を歩き、疲れてもいたのでおとなしく部屋に戻り、寝る。

DAY7 (14AUG2016) アイラ島滞在。

アイラ島に到着5日目。日曜日。今日の蒸留所はボウモアのみ。午後から行く予定。午前中は予定をいれていない。これは当初からの綿密な計画の一環である。万一生牡蠣に当たった時のことを考えてできるだけ予定を入れないようにしていた。そういった緻密かつ大胆な計画が単独行には必要だ。大学生のころ、いや、もっと昔、小学3年生から自分は単独者であったのだ。その辺りの計画性は十分備わっていた。もう一人旅という冒険にハマっていた。どんな小さな旅でも自分にとって未開の地であればそれは冒険だ。さらに考えてみるに、そういった冒険を好む自分を育ててきたのは読書かも知れない。アムンゼンとスコット、スヴェン・ヘディン、ジュール・ベルヌ、加藤文太郎、ラインホルト・メスナー、沢木耕太郎など、多くの探検家、登山家、作家のおかげである。まだ、挙げればキリがない。そして、冒険探検部との出会いがその後の旅人人生を決定づけたのだ。

そんなことを考えながら、穏やかな曇り空の朝は、昨夜

の心配をよそに快便である。十分アルコール消毒をしていたのが効いたのかもしれない。昨日の疲れも残っていない。賭けに勝ったのだろう。運命はここで立ち止まるなど言っている。ありがたいことだ。

0800 朝食へ。基本的にこの朝食を一日のメインと位置付けているからいいようなものの、3食このペースで食べていては一回りも二回りも胴回りが成長してしまう。部屋に戻り、旅日記を付けたり、読書をしたりして体調を確認する。

1000 街を徘徊する。日曜日であるためか、いつものんびりしている街が更にのんびりしているように感じる。ホテルから5分ほどで波打ち際まで来た。海辺にはブヨの仲間だろうか、極小の吸血昆虫がいる。海水の環境で昆虫が生息できるのだろうか。海でボウフラ形態の幼虫がいれば、あっという間に小魚たちに食べられてしまうと思うのだが。そうでなくても、遊泳力がそれほど高くないはずなので、打ち上げられたり沖合まで流されたりと生息にはかなり厳しいはずだ。近くの淡水で発生して湿度の高い海沿いに集結していると考えた方が妥当か、などともうでもいい考察をしつつ海辺の生物を探す。



海なし県で育ったためか、海辺の生物には幼少のころからかなり高い関心があった。図鑑でみた生物たちがあふれかえっている海にいくとうれしくて仕方なかった。ボウモアの海にはそれほど生物はいないのだろうか。しかし、牡蠣は養殖しているようだし、カニやロブスターもかなり豊富らしい。日本のやや汚れた海にいる生物とは種類が違うだけなのかもしれない。潮の香りも日本の海ほど強くない。特に太平洋側の磯、潮溜まりのあるところではかなり潮の香りが強い。以前聞いたところによると海水プランクトンの死かいの匂いらしい。本当か嘘かは確認していない。確認するほどの興味もない。



海辺に立つのは午後から行くボウモア蒸留所。波打ち際とか、石垣のところにはカニなどがいると楽しいのだが、

特に生物は見当たらない。川の流れ込みがあり、ピートの大地を通ってくるためだろう、茶色に着色されている。岸に近い部分は海も茶色になっている。



oo-op で牛乳と水を買ってホテルへ一旦戻る。朝は曇っていて涼しいが昼になって日が射すと暑い。水分を積極的にとらないと健康を害する恐れがある。で、この時買った牛乳だがとてもおいしい。小中学校で無理やり牛乳を飲まされ、職についてからも職務だと認識して無理やり牛乳を飲まされてきたためか、若干の牛乳アレルギーだが、牛乳自体は嫌いではない。ただ、まずい牛乳が嫌いなだけだ。このoo-opの牛乳は関市の関牛乳、郡上市のミルパコ、飛騨市の牧成舎牛乳（いずれも岐阜県）に匹敵する旨さである。ううむ。スコットランドの牛乳も侮れない。ロンドンの某SBのラテは悉く激マズだったが、使われていた牛乳に問題があったのだろう。とりあえず、アイラ島では某SBを見かけたことはない。

部屋で牛乳を飲みながら読書をし、ボウモア蒸留所が開くのを待つ。日曜日は1200 オープンなので、計画に完璧にはまっているのである。

歩いて5分もかからないのに早めに出ると。



ボウモアホテルの玄関わきのテーブルではアイラ猫が寝ていた。カメラを向けるとあくびをする完璧なモデルぶりである。やるなお前。



早めについたが、ビジターセンターの位置口前にはベン

チがあり、そこで読書しつつ待つ。

1200 時間通りに扉が開けられる。入ってすぐのところにレセプションとショップがあり、まずはツアーを申し込む。7GBP、2 杯付き。

ツアーが始まるまでに時間があるので、ショップで様々なボトルをチェックする。

Bowmore (レート計算は 202105 時点)

23 Year Old Port Cask Matured

379.75GBP (¥58534.66)

New Release Tempest Batch 6

49.99GBP (¥7705.46)

Devils Cask III Final Release Sherry Casks

195.00GBP (¥30057.30)

ボトルを買うかどうか悩む。買うべきか、買わざるべきか。買えることは買える。が、しかし、それを持ちかえるのが難しい。軽くはない。機内に液体は持ち込みにくい。荷物を預けるのは動きが悪くなるうえに、破損が心配。荷物がかかり乱暴に投げられているのは知っている。

結局、あきらめた。乗継や都市へのアクセス時の動きが悪くなるのは自分の旅ではない。

1230 ツアー開始。テイスティングは海が見えるテイスティングエリアで。気分がいい。蒸留所のテイスティングエリアはどこも魅力的だ。

Ardbeg は秘密基地のような隠し部屋。Lagavulin は暖炉の部屋。Laphroaig は天井の低い薄暗いバー、そして Bowmore は海が見えるテーブル。どこも気分がいい。



このテーブルの反対側にはバーがあり、様々なテイスティングセットが置いてある。また、ここには戻って来るからこのバーで飲むのは次にしよう。

1400 昼食を摂っていなかったため、この街でもいいレストランという位置づけのハーバー・インに入る。ここは当然宿泊できるのだが、定宿はボウモアホテルに決めているし、若干宿泊費が高いのでここに泊まることはないだろう。

昼食なのだが、ビールとスモークサーモン。時間も時間だし、夕食に影響するくらい大食いするのも、手の込んだものをオーダーするのもよろしくないかなという感じもあり軽めにしておいた。時間を外したせいで、他の客はいなくてのんびりと過ごせたが、スタッフは休憩したかっただろうなあ。



椅子はボウモアタータンを使って作られていた。ここで解説せねばなるまい。タータンとは多色の糸で綾織りにした格子柄の織物のことで、スコットランドにおいては、日本の家紋のようなものである。ボウモアタータンもラフロイグタータンもエジンバラタータンもあるのだ。今はファッションとして広まっているが、本来はその家系特有のものだったらしい。以前、エジンバラ城の中にあるショップで数多くのタータンチェックの製品が置いてあり、かなり勉強になった。今日はボウモアに行ったばかりなので、そこでボウモアタータンはどういうものであるか理解した。それをさっそくテストされたようだが、「ちゃんと、わかってんのか？」という神の意志を感じないわけにはいかなかった。

1400 部屋に戻り、夕方まで転寝する。ここが一人旅のいいところである。

1920 今日は日曜日なので、BBQ メニューのみ。

これはサンデーローストと言って、日曜日は父さんがローストビーフを作って家族に食べさせるという習慣(?)からくるものらしい。おいしそうだったので、様々な肉をミックスしてサーブしてもらった。



牛も羊も鶏もどれも旨い。かけてあるソースも絶品である。毎回この話題になるとはっきりと主張させてもらうのだが、イギリスの飯がまずいという輩はいったい何を食べてそれを言っているのだろうか。ドッグフードでも食べてるんじゃないのか。肉とビールで豊かな夕食を終える。

シメはウィスキー Bowmore Black Rock にした。いつもの Bowmore 12y ではなく、もっといろいろなものを学ぶべきなのだったからだ。いつものを安心して飲むのもいいが、一つのところに安住してはいいけない。ウィスキーはそういった生き方についても考えさせる。2230 明日は夕方フライトだが、移動日である。早めに寝る。Caol Ila にも行くし。(続く)

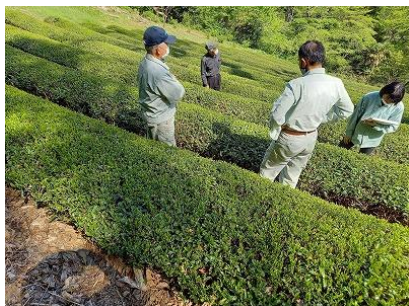
宮本茶園

4月半ば農協から渡された2020年分確定申告書、新規就農以来4年連続の赤字決算です。県農業技術センター北相事務所主催2018年度農業基礎セミナー経営診断の講義、講師の先生から「これから3年連続で赤字経営なら農家をやめた方がよいですよ」と言われた事が現実になりました。賃金奴隷の鉄鎖を断ち切って宮本茶園園主になりましたが、昔INCH理事だった頃某氏から「宮本君は経営者の才覚が無い」と指摘された事を思い出して心が折れかけました。「金儲けを考えるから憂鬱になる。年金あるのだから野良仕事は楽しもう!」と気持ちを切り替えました。営農指導の木村先生に話すと「ここまでやって来て今さら何を言うのですか。コスト見直して経営し、宮本さんに続く茶栽培後継者が現れるのを待ち続けましょう!」と叱咤激励されました。幾度となく鑑賞した映画「みのりの茶」、3歳の孫娘が主人公のように成長するのを楽しみに宮本茶園経営改善に取り組みます!

・春の茶仕事

4月21日藤野茶業部総会が開催されました。開会にあたり引退される小池前部長から「半世紀にわたってお茶栽培に取り組み、まだまだ続けたいと思っていたが体が動かなくなった。跡継ぎもいないのでこれで終わりにする」とご挨拶をいただきました。佐野川で茶栽培に取り組むようになってから小池前部長にはずっとお世話になりっぱなしでした。就農研修時には部外者の私を藤野茶業部整枝講習会に参加させてくださり、新規就農した時は農業委員会から紹介された荒廃茶園の整備を手伝っていただきました。小池前部長の言葉を聞きながら、茶園共進会2等の茶園を引き継がない力量不足をかみしめました。

総会後は木村先生の茶園巡回指導、新芽の開葉数を調べて各茶園摘採予定日を把握しました。



これを受けて役員が摘採日程調整・作業人員確保・搬送体制・機械用具準備等を相談し、5月4日から23日まで茶葉摘採作業を行いました。今年は家族やヘルパー以外にボランティアを募集して作業人員を確保し、収穫した茶葉は農協職員が一釜分(80~120kg)を摘採する毎に串川荒茶工場へ搬送する体制を整えました。天候にも恵まれ、販売茶(足柄茶用)・佐野川茶摘採から一番棒ほうじ茶用の番

宮本透

刈りまで予定した日程で作業をこなす事ができました。

串川工場で受け取った荒茶は役員で藤沢市の茶来末に搬送し、佐々木社長に品質を審査していただきました。



各農家茶園荒茶の外観・水色・香気・滋味についての講評や今後の栽培管理についての助言を伺いました。市場流通できる製品としての佐野川茶、品質向上の研究を怠らないよう常に勉強しています。

JA 神奈川つくい5月号に「藤野茶業部からのお知らせ〜茶園の管理作業や摘取のお手伝いをしていただける方を募集しています〜」という記事を掲載していただきました。かつて百数十軒あった佐野川の足柄茶生産農家は今や4軒、63歳の私が一番若者で高齢化・後継者不足は深刻です。藤野茶業部は佐野川茶製品開発・共同作業・荒廃茶園再生等、足柄茶北端産地振興に全力で取り組んでいます。いつの日か「宮本さんに続く茶栽培後継者」と出会える事を熱望しています!

・Megu Gelato 開店

業務用粉末緑茶を取引いただいているメグジェラート、開店以来ピスタチオグリーンのが可愛いキッチンカーで口当たりの滑らかなイタリアンジェラートを移動販売されてきました。津久井の農産物を原料にした製品作りにこだわり、佐野川茶も店主の塩田さんが藤野茶業部事務局に買い付けに来られました。お話を伺うと塩田さんは千木良出身で、中学校時代はゴエモン高村師匠の教え子だったそうです。更に驚いたのは人気製品津久井きなこアイスの原料きなこ、ゴエモン大豆を高橋・高村師匠が石臼でひいて手作りしているのです。

3月31日津久井湖城山公園水の苑地に待望の店舗が開店、水・土・日曜日営業で大人気スポットになっています。私は開店からしばらくたった雨降りの水曜日に伺ったので

すが、平日午前中にもかかわらず店頭では幼児を連れた若い母親や女性客が順番待ちをしています。佐野川茶アイスを食べた事を娘に話すと「Instagram で見ている。素敵なお店だね。私も家族でアイスを食べに行きたい!」とوراやましがられました。皆様も津久井観光の折にはMegu Gelato にお立ち寄りください。



・ちーむゴエモンの活動（醤油手入れ）

2 月に仕込んだ醤油醗は木下邸物置の片隅をお借りして管理しています。ゴエモン佐野川チームは昨年メンバーが 2 名抜け、新たに木下さんと小華和さんをお誘いました。小華和さんは INCH メンバーあおいさんの母上、平塚養護学校時代の同僚、藤野移住時にゴエモン高村師匠を紹介してくれた友人です。3 月 9 日昔の教員仲間が集い、定例手入れを行いました。



小嶋さん・石川さん・加藤さん・中村さんと久しぶりに会う懐かしい顔ぶれ、30 年以上続く深い友情に元気をもらいました！手作りお菓子・石川茶園謹製紅茶等たくさんのお土産をいただいた上に、佐野川茶や雑穀畑で収穫した津久井在来大豆を購入してくださった事感謝しています。

当日は千木良のヤギ苑で醤油仕込み見学、日連の木下邸で醤油手入れ、和田・上岩の茶園・雑穀畑・花卉畑案内、相模湖のアミーユでランチ、限られた時間での過密なスケジュールでしたが私の生活している場所をつぶさに紹介しました。アミーユのランチではデザートに Megu Gelato の津久井きなこ・佐野川茶アイスを出していただき皆さん大喜び、心を込めたおもてなしができました。

・雑穀街道普及会の活動

2 月に JA クレイン加工場で搗精したモチアワは、「たんぽぽ」に依頼して 200g 入袋に包装していただきました。アワの穂をデザインした素敵なラベルで、雑穀街道佐野川ブランド製品第 1 号です。



販売価格を 700 円に設定し、農協直売所「あぐりんず」に納品手続きをしました。JA クレインでは「あくまでも農家が自家用に食べるための精白で、販売用ではありませんよ」と言われ、製品には夾雑物が残っています。チェックした「あぐりんず」担当者から「これではお客様のクレームがあった時対応できません。取り扱いは無理です」と伝えられ、納品を断られました。前号で報告したように、防鳥ネット張り・脱穀・保健所や市農政課との交渉等、たくさんの人々に助けをいただき長い時間をかけて準備し、やっとの思いで誕生させた製品です。厳しい現実を突きつけられ、「雑穀街道ブランドを市場流通せるハードルはこんなにも高いのか!」と痛感しています。

落ち込んだ気持ちを切り替え、販売価格 600 円でいつものように行商しています。ゴエモンやアミーユつながりの友人たち・木俣師が購入してくださり、在庫僅少となりました。6 月になったら上岩雑穀畑の植え付けです。雑穀街道普及会の活動に興味ある方、宮本携帯(090-2205-8476)へご連絡ください。



植物と人々の博物館 Plants and People Museum

Vol.23

麦秋の季節となりました。小菅村や周辺の農家の方の協力を頂き、雑穀の播種（種子継ぎ）も始まっています。希望者には、本年5～6月に播く種子（アワ、キビ、モロコシ、ヒエ、ハトムギ、シコクビエ）を差し上げます。

雑穀街道普及会を立ち上げました。雑穀を栽培する生物文化多様性が豊かな地域である丹波山村～小菅村～上野原市（桐原）～相模原市（緑区）の人々と連携し、国際連合食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産へ「雑穀街道～農山村における生物文化多様性保全」の登録を目指しています。（<http://www.milletimpic.net/milletworld/millstr.html>）

民族植物学ノオトを発行しました。2005年から発行しているもので今年で第14号となりました。HPから自由にダウンロードできます（<http://www.ppmusee.org/goods.html>）。

第15号の原稿を募集していますので、お気軽にご寄稿下さい（締め切り11月末）。

（報告：理事 西村俊）



○「INCH祭り（ライブ）」のおしらせ

秋の一大イベント「INCH祭り（ライブ）」を開催予定で進めています！ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪音楽しない方はのんびりしてても、もちろんOKですよ♪毎年おなじみのバーテンダー「ひでやん」もバーを開きます！！

■日程 9月25日（土）16:00開演～26日（日）日帰りもOK

■対象：子どものみの参加はできません。

■費用：日帰り 1,500円 宿泊 3,500円 食事付

■BARはカンパ制です。 ■会場：小菅村のいつものキャンプ場

■お申し込み：ライブの当日参加はOKです。楽器を持ってお越しください。



○事務局より

単独で動ける毎朝4：00～7：00が（山）野草の採取の時間、ということで生活を変化させた4～5月でした。

昨年は緊急事態宣言を受けて小菅の物産館も休業だったため売り先が無く、さばききれなかったと記憶しています。

小菅村の人口は700人。各市町村配布分のワクチンは1箱÷500人×2回分。15歳までの若者と希望しない人などを除くと・・・40代の私も5月中に1回目の接種をすることになりました。

自己責任での「いつものキャンプ場」の利用は受け入れております。ご相談いただければ、オリジナルのキャンプを開催することは可能です。お気軽にご相談ください！！事務局 くろさわ

○自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。

ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円

学生会員：3,000円 賛助会員（個人・団体）：10,000円

家族会員：6,000円 準特別維持会員：50,000円

特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

[雑穀街道特別会員（小菅特別から変更）：1口1,000円から](#)

成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナチュラ 142号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2021年6月1日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>